

みえ半導体産業振興方針（仮称）策定に係る第1回有識者会議 概要

1 日 時 令和7年10月15日（水） 13時45分から15時45分まで

2 出席者

県 知事、副知事、雇用経済部長

有識者 三宅委員（座長）、加藤委員、金子委員、福永委員、
藤本委員、増川委員、若林委員

オブザーバー 中部経済連合会

3 主な意見

【産業の集積】

- ・台湾における半導体の集積の例をみると、半導体製造企業が立地したところに、製造装置メーカー、設計企業、ソフトウェア企業という順につながりができて、企業が集積する。
- ・半導体を使う側の企業のニーズを意識する必要がある。ユーザーがいるところに半導体企業も集まる。今後の最大のユーザーは、自動車とデータセンターである。
- ・企業が進出を決めるうえでは、将来的な工場の拡張性も重要な要素であり、まとまった用地が必要となる。

【人材育成・確保】

- ・高卒人材と、大卒・大学院卒人材について、それぞれ分けて分析する必要がある。
- ・工業高校では電気・電子分野で半導体基礎の授業を実施している。進学校の生徒に対しても、出前授業などを通じて、「三重の半導体」を意識してもらうことは有効。
- ・生徒だけでなく、教員も半導体の将来性を理解しておくことが大事で、教員向けの研修も必要である。
- ・人材を呼び込むためには、研究開発拠点も必要ではないか。
- ・海外からの企業誘致や高度人材を呼び込むためには、質の高い住居・教育・医療体制が必要。また、交通や観光資源も重要である。
- ・大学と企業の連携については現在も行われているが、将来を見据えて、研究テーマや人材育成について、マッチングする仕組みづくりが必要。